

# 多忙・無関心…遠のく投票所

## 選挙権年齢引き下げ「1期生」の今は

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられてから初の統一地方選。最初の国政選挙だった2016年の参院選から3年近く経つが、10代の有権者として注目された若者たちはいま何を思うのか。



「僕自身、政治は月の裏側でやっていることだと思っていた」。学生団体「i vote」代表で学習院大2年の正生雄大さん(20)は、約150人の高校2年生にこう切り出した。

15日に私立トキワ松学園高校(目黒区)で開かれた模擬選挙の一幕だ。総務省がまとめた17年の衆院選の



学生団体「i vote」の授業を受け、模擬投票をするトキワ松学園高校の生徒たち。いずれも15日、目黒区

## 「行かないと若者が不利に」の声も

- 「若者」が投票しやすくなるアイデア
  - ・インターネット投票の解禁
  - ・ガソリンスタンドや駅、大学などに投票所を開設
  - ・投票期間を延長する
  - ・投票所でしかもらえないLINEスタンプを発行
  - ・「#投票に行ってきました」をツイッターやインスタグラムで流行させる
  - ・若者に人気の有名人がインスタグラムのストーリー機能で投票に行ったことを発信
- ※18、19歳で初めて投票した人への取材から

若い人の意思とは違う結果が出ていると思った。以来、投票の重要性を感じるようになった。4月の統一地方選も投票する予定だ。

16年夏の参院選から、選挙権が高校生を含む18歳以上に引き下げられた。この時の都内の投票率(選挙区)は18歳が62・23%、都内全体(57・50%)を上回ったが、19歳は53・80%で下回った。

市民の政治参加や主権者教育に詳しい首都大学東京の林大介特任准教授(政治学)は「高校生と大学・社会人の差」とみる。

高校生は興味の有無に関わらず、授業で政治や選挙について知る機会がある。だが、大学生になると、学部によってはそうした機会が失われる。また、進学で実家を出ても住民票を残したままのケースがあり、投票のために帰省するには時間とお金がかかる。そのうち「課題意識が薄れてしまおう」と林さんは指摘する。

1年余り経った17年10月の衆院選で、都内の19歳の投票率(小選挙区)は39・73%にとどまった。49・22%だった18歳とともに都内全体(53・64%)を下回った。

早稲田大3年の中沢日夏里さん(21)も、初めて選挙権を得た16年以外は投票していない。「一度行ってみて、私の1票ってそんなに重要なのかな、と疑問に思



高校生の質問に応じる学生団体「i vote」のメンバー

った」。自分のように軽はずみな判断で投じられた票が増えることで、世間が混乱するのではないかと考える。「それなら、ちゃんと考えている人に任せたい方がよいと思う」

どうすれば、若者が投票しやすくなるのか。法政大3年の鎌田麗さん(21)は「ネットで投票できたり、投票期間が長かったりすれば、投票する人が増えるのでは」と提案する。SNSで炎上でもない限り、候補者や政治家の情報に触れることはない。周りには「一度も投票したことがない」という人もいる。

一方、明星大3年の池直樹さん(21)は、16年に19歳で選挙権を得てから必ず投票に行っている。今まで投じたのはすべて白票だ。公約をテレビでチェックしたり、街頭演説を聞いたりしているが、「投票したいと思える人がいなかった」。それでも投票を続けるのは理由がある。「投票しないと政治家は若者の方を見てくれない。それでは、自分たちが不利な社会になってしまう」(小林直子)